

東京都廃棄物審議会計画部会

(第 1 回)

会 議 録

令和 7 年 2 月 1 2 日

東京都環境局資源循環推進部

(午前 11時25分 開会)

○福安計画課長 定刻になりましたので、東京都廃棄物審議会計画部会を開会いたします。

委員の皆様方におかれましては、廃棄物審議会の総会に引き続き御出席いただきまして、誠にありがとうございます。引き続き計画課長の福安が進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

計画部会の開催に当たりまして、注意事項を申し上げます。御発言の際には、お名前をおっしゃっていただきまして御発言をお願いできればと存じます。チャット機能などを使って発言したい旨を伝えていただいても結構です。また、傍聴者の皆様におかれましては発言を慎んでいただきますようお願い申し上げます。

定足数の確認でございます。本日は8名の委員の方に御出席いただいております。委員総数の11名の過半数に達しております。東京都廃棄物審議会運営要綱第7項第8項で準用している第6項第1項で規定しております定足数を満たしていることを御報告させていただきます。

それでは議事に先立ちまして、事前にデータで送付させていただいております資料の確認をさせていただきます。

資料1、2、3でございます。委員名簿、それから計画改定の視点、改定スケジュール(予定)でございます。資料の不足などございましたら事務局まで御連絡ください。よろしくお願いいたします。

こちらの部会につきましても、WEB上ではございますけれども、公開いたしますので御承知おきください。

それでは、委員の皆様を御紹介させていただきます。事前に配付いたしました資料1の委員名簿を御覧ください。時間の関係で、お名前だけの御紹介とさせていただきます。五十音順で読み上げさせていただきます。恐縮でございます。

栗生木委員におかれましては、本日御欠席の御連絡をいただいております。

天沢委員、御欠席の御連絡をいただいております。

大石委員、岡山委員、高橋委員、田崎委員、平湯委員、本日御参加いただいております。

村上委員、本日御欠席でございます。

森委員、森本会長、山本委員、本日御参加いただいております。ありがとうございます。

先ほどの総会におきまして、森本会長から部会長として田崎委員を指名されてございますので、これからの進行を田崎部会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○田崎部会長 それでは進行させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

私、今期で4期目の委員となります。その意味で任命させていただいたと認識しております。今回の計画部会ですけれども、従来の廃棄物処理計画に加えてサーキュラー・エコノミーについても議論するということで、ちょっと野心的な部分もある計画となっております。委員の皆様の専門的な知見、いろいろいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず計画の改定の内容について議論するということですので、まず第

1 回目の部会ということでもありますので、大まかな方向性を確認するというのが今日の場となります。本格的な議論は次回以降と行っていきたいということでもあります。

それでは、まず計画の改定の視点について、事務局に資料を用意していただいております。資料 2 で幾つかの視点を提案させていただきますので、委員の皆様方から忌憚のない御意見いただければと思います。では、事務局のほう御説明のほどよろしく願いいたします。

○福安計画課長 田崎部会長ありがとうございます。

それでは事務局から計画の改定に当たりまして、先ほど総会の諮問もございましたけれども、幾つかの視点を提案させていただきます。

資料 2 を御覧ください。

計画改定の視点でございます。上段でございますけれども、1 及び 2、諮問の際に御説明させていただいた内容でございます。静脈分野からサーキュラー・エコノミーへの移行を加速するための施策の方向性、また廃掃法の第 5 条の 5 第 2 号に定める事項を中心に御議論いただくというところでございます。

また計画改定の視点でございます。3 点でございます。廃棄物の発生量や環境影響などを踏まえ、都は今後特に重点的に対策を講じるべき分野の設定や、更なる発生抑制・リサイクル基盤の強化など、資源ロス削減と循環利用の強化徹底を進めるための施策のあり方。

二つ目、先駆的な 2 R・水平リサイクル施策の社会実装の拡大や、動静脈連携の活性化など、持続可能な資源利用の実現に向けた社会変革を加速するための施策のあり方。

カーボンニュートラルへの貢献や災害廃棄物対策の一層の強化、静脈分野のアップデートなど、社会課題に対応した強靱で安定的な廃棄物処理システムの確保を図るための施策のあり方。

以上の視点を基に計画部会での議論を進めていければと考えてございます。よろしくお願いいたします。資料 2 の説明は以上でございます。

○田崎部会長 それでは、御説明いただきました、ただいまの説明につきまして、何か御質問等ありますでしょうか。

大石委員から手が挙がりました。どうぞ。

○大石委員 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

1 点質問ですけれども、今回サーキュラーエコノミーということで、資源を有効利用するという点についての質問です。東京都は 2020 年のオリパラのときに都市鉱山から金メダルを作るということで、小型家電のリサイクルに大変精力的に取り組まれたと思いますが、その後の流れについて私は存じておりませんで、その辺りはサーキュラーエコノミーにもつながる部分もあるかと思っておりますので、現状どうなっているか、もし教えていただければありがたいと思います。以上です。

○塚田資源循環推進専門課長 資源循環推進専門課長の塚田でございます。私からお答えをいたします。

今、委員の御指摘のとおり、2020 大会におきまして、小型家電を集めてそれからメダルを作るというプロジェクトを国も含めて実施をさせていただいたところでございます。その後につきましては、このプロジェクトが小型家電リサイクルというものの、

一つの流れを作るという側面もありました関係上、この効果が一応出てきたということもありまして、それ以降、特別なプロジェクトで集めるということは特段してございません。ただ、ウクライナ侵攻があったときに、特にパソコンですね、事業者それから家庭で退蔵されているパソコンの回収を促進するという側面からプロジェクトを立ち上げたことはありますが、その後は一応その流れというのは根づいてきているのかなという認識でございます。以上になります。

○大石委員 ありがとうございます。今年デフリンピックも開かれるということで、ぜひ継続していただければなと思いました。以上です。

○田崎部会長 御指摘ありがとうございます。小型家電やレアメタルという話になりますと、都の領域を超えてさらに国、国際的な資源の流れというのを考えなくてはいけない中、どのようにフォローアップしていくかという意味でも、ちょっと近しさがある質問だったかと思います。国に任せる、国際的な動きに任せるという部分と、東京都自身がフォローするところを今度の計画の中でも少し意識しながら考えていくべき論点かと思っています。

では、そのほかの方から意見ございますでしょうか。

はい。高橋委員どうぞ

○高橋委員 はい、高橋でございます。声聞こえてますでしょうか。

○田崎部会長 はい、聞こえています。

○高橋委員 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

質問ということではないですが、意見というか要望というかお願いでございます。恐らくこの計画をつくっていく中で、資源循環を進めていくということになると、一定のルールというか規制といったところも検討されていくと思いますが、私どもの東京商工会議所として中小企業も多く所属しておりますが、そういった規制ルールが事業活動の妨げというか阻害にならないようにぜひ配慮いただきたいという部分をまずお願いしたいと思っております。

それともう一つは、持続可能というところにも関わってくると思いますが、非常にこの取組大事だと思っております、これが持続可能であるためにはやはり経済的なメリットというか、企業がちょっと言葉が悪いですけどもうかるような、そんな仕組みがないと、持続可能にはなっていくのかと思っておりますので、関わる事業者がしっかり利益を上げられるような仕組みを考えていくということも大事なのかと思っておりますので、その辺を踏まえた計画策定というところをお願いできればと思っております。以上でございます。

○田崎部会長 高橋委員御指摘ありがとうございます。今回の計画の改定の視点・論点というWhatの話はしていると思いますが、Howという意味でビジネスが持続するような視点というような、Howのところについての視点、指摘だったかと思います。国際的な動きに関しましても、やはりサーキュラーエコノミーを実現するには、いろいろなイネーブルできるようにする条件をつくっていくということが大切にされていますので、東京都さんの検討でもその視点を十分に認識していただければと思います。

続きまして、森委員、どうぞ。

○森委員 はい。ありがとうございます。

今、投影いただいている資料の一番下に、「カーボンニュートラルへの貢献」という一言があるわけですが、今回計画をつくるに当たって、都の気候変動対策やカーボンニュートラルを担当しておられる、例えば、委員、審議会などとの絡みは途中であるのでしょうか。自治体によっては最近、資源循環と温暖化を一体的に議論しているようなところもあるので、情報のこちらからのインプットだったり、カーボンニュートラルの環境審議会のからのこちらに対するインプットだったり、そういった絡みみたいなことは発生する予定でしょうか。

○田崎部会長 こちらについては、事務局から御回答いただければと思います。

○福安計画課長 森委員、御質問ありがとうございます。

東京都の環境審議会の中で分野横断的な施策の議論というものをしているところでございまして、本日の総会の資料でも一番最後に少し早足になってしまったのですが、資源循環の分野に関して、気候変動、生物多様性、それぞれの分野との連携も意識した御議論をいただいたところでございます。今回の廃棄物審議会の議論の内容につきましては、環境審議会にもインプットしてまいりますし、逆に環境審議会の中での議論も、廃棄物審議会にフィードバックをしてまいりたいと考えてございます。

また、審議会の場合だけではなくて、環境局内、また庁内全体にも、こういった議論をインプットしてまいりたいと考えてございます。先生の御指摘のように、資源循環、廃棄物処理というと、分野に限らず、分野を横断的に検討していく、それがマルチベネフィットにつながっていくというような議論が非常に重要かと思いますので、引き続きそこを意識して、審議を進めさせていただければと思ってございます。ありがとうございます。

○森委員 はい、ありがとうございます。

○田崎部会長 資料について、そのほか御意見ありますでしょうか。

はい。岡山委員どうぞ。

○岡山委員 はい、ありがとうございます。

下から二つ目のところの「先駆的な2Rの施策」というのは、ずっと重たいテーマだなと思って、私もずっと悶々としているのですが、例えばプラスチックに関して、つい昨日、足立区でプラスチックに関するワークショップをしてきたのですが、現状としては、東京都のスーパーマーケットの中で野菜や果物などの青果物のうち、プラスチック包装されていないものは全体の1割程度だったんです。つまり9割はプラスチック包装されているという実態把握ができて、それを例えば欧米のように全部量り売り、バラ売りにしてしまうとただけでも、それが単に袋に変わるだけでも、結構な発生抑制に多分なるんです。そういったときにワークショップで参加者がなんて言ったかっていうと、抜本的に減らすんだったら、やっぱり使い捨てプラスチックを禁止しちゃうしかないよねという意見は必ず出ます。

それが先進的な2Rの政策として採用されるかどうか、さっきできるかできないかという話もありましたが、今はもうむしろ本当に抜本的な発生抑制を考えるのであれば、そういった施策もやはり視野に入れなくてはいけないのではないのでしょうか。

先ほど、質問もしたんですけれども、廃棄物の手数料についても、企業に対してインセンティブをつけるための料金の改定というものも視野に入れなくてはいけないのでは

ないかと個人的には思っています。そういったことも議論をさせていただけるのでしょうか。

○田崎部会長 では、事務局から御回答いただければと思います。

○荒井資源循環計画担当課長 資源循環計画担当課長の荒井からお答えさせていただきます。岡山委員のご質問の件ですが、いわゆる物のパッケージのプラスチックの削減という点で、量り売りできるようなものについては、今、都におきましても、色々な補助事業の中で、測り器を導入してプラスチックを削減するというのも対象に入れて進めているところでございます。また、やはり抜本的に減らすという中で、何らかの制度化の検討が必要ではないかというところについても、プラスチック削減プログラムでうたっておりますので、そういった面も含めて御議論いただければと思っております。

ただ、プラスチックの包装は、衛生面や職員の安全面に貢献しているところもございますので、なかなかそちらのほうのバランスを取りながら、抜本的に減らす方法、特に我々も通販ビジネスについては、どんどん進めたいと思っておりますので、ぜひそういった情報等をいただければと思っております。

次に条例手数料についてですが、条例手数料自体は各自治体で定められているものですので、その条例手数料の多寡によって、ごみの削減やリサイクルが進みにくいというところにつきましては、この計画部会の中でも、色々な御意見等を賜ればと思っております。以上でございます。

○岡山委員 ありがとうございます。

○田崎部会長 ありがとうございます。抜本的な対策という話でいいますと、都ができること都が国に働きかけてやることと、またそのための議論というところで、これも少しレベルが違うところがあるかと思えますけれども、一応、この計画部会の中ではしっかり議論していくということだったかと思えます。

それでは、そのほか御意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

平湯委員、お願いします。

○平湯委員 平湯です。よろしくお願いいたします。

今映っているところの計画改定の視点の一番上の丸のところに関連する資源ロス削減、そこに関連してのコメントとなりますが、先ほどの審議会の資料の23ページや11ページを特に関心を持って拝見させていただいておりました。食品ロスは、日頃大学生たちと接していると関心がある学生はそれなりに多いと思います。例えば卒論のテーマやグループワークのテーマとして食品ロスを選択するという学生が多い印象をもっていますので、とにかく「気づき」から「行動」というのがすごく大事だと思います。そして身近なものとして気づくに際してまず重要なのは、データの見せ方だと思います。今データを画面表示していただいているのですが、総量で出ていますが、やはり身近なものとして感じるには、1人当たりこのぐらいですなどといった具体的な数字で表記すると身をもって気づきやすいと思いますので、データの見せ方というのは非常に重要というのをお伝えさせていただきたいと思います。

それからあと「気づき」から「行動」ということで、気づいても行動に移せないとい

うところがありますので、11ページに掲載がありますような「見える化サイト」のような情報集約サイトの充実、これは本当に必要になってくると思います。それからフードドライブやフードシェアリング、アップサイクルなど、実際それを利用しようという行動になかなか移らないため、やはりこのような情報サイトの充実、拡充というのはすごく必要になるのではと思って、本日拝聴しておりました。以上です。

○田崎部会長 指摘ありがとうございます。しっかりと今の視点を計画に入れ込んでいければと思いますけども、事務局から何か御回答ありますか。

○荒井資源循環計画担当課長 資源循環計画担当課長の荒井でございます。

平湯委員からの御意見しっかり賜ります。都におきましても、効果的な普及啓発の方法について、またこの計画部会の中で、色々な御意見ないし、御提案をしていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○田崎部会長 かなりいろんな意見出てきましたけれども、まだそのほかに何か御意見ありますでしょうか。

おおむね改定の視点について、大きな御意見をいただいたということで、次回から本格的な議論を行っていきたいと思います。

では、続きまして事務局から資料3を使って、今後の計画関係のスケジュールを御説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○福安計画課長 事務局から資料3、改定スケジュール（予定）について御説明差し上げます。

本日は、計画部会第1回でございまして、3月下旬に次回の計画部会を開催させていただき予定でございます。その後、審議を重ねていただきまして、9月頃を目途に、計画部会としての中間まとめ案をまとめていければと考えてございます。様々な御意見を賜ればと存じます。よろしくお願いいたします。その後、10月以降のスケジュールにつきましては、先ほど審議会総会で御説明した流れと同様でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。資料3の説明は以上でございます。

○田崎部会長 ありがとうございます。

では、今のスケジュールについて何か御質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか中間まとめの提出、10月頃に向けてしっかり我々が議論することとあります。

（なし）

○田崎部会長 特にないようですので、よろしいかと思います。

では、以上をもちまして、本日の議題は全て終了いたしました。進行のほうを事務局に返したいと存じます。

○福安計画課長 計画部会、様々な御意見を賜りましてありがとうございます。それでは、本日の東京都廃棄物審議会計画部会を閉会としたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

（午前 11時49分 閉会）